

JSI Newsletter

C O N T E N T S

学術集会プログラムについて
村松 繁
1

〈気になる研究〉免疫系の新たな側面
谷口 克
3

私が免疫学研究に興味をもったのは？
垣生園子
4

免疫学会へのひとこと
平野俊夫
5

IUIS の現況
笹月健彦
6

FIMSA の現況
多田富雄
8

International Immunology CONTENTS
Vol. 6 No. 3-8
9

理事会より
村松 繁
16

INFORMATION

[The 9th International Congress of Immunology]
2

[CIS/CIC International Symposium on Clinical Immunology 1995]
7

[Eighth International Congress of Mucosal Immunology San Diego 1995]
8

[第39回日本リウマチ学会総会]
15

学術集会プログラム

プログラムについて

第24回学術集会会長・京都大学理学部

村松 繁

7月20日締切りの応募演題数は、予想を上回り1176題に達した。種々の下準備の後、8月2日から3日間プログラム委員会を開き、室外の猛暑にも負けないホットな討議・検討の結果、口演529題と示説・ワークショップ647題が決定した。

口演は例年通り発表10分、討論5分で11会場で行う。

時間帯は第1日9:00~12:00、13:00~14:45、第2日9:00~12:00、13:00~14:30、第3日9:00~12:30、の予定である。

示説は1日約215題で、ポスターはイベントホールに終日展示するが、パネル前での討議は各人の都合

のよい時間帯（原則として1時間）に行う。その時間帯は各自のボード内に掲示しておくことにする。これは、この前の Newsletter や学術集会案内に書いたことと多少異なっている。実は午後の一定時間はパネル前での討議に当て、その間は口演を行わないと言うのが最初の案だったのだが、それだと第1日と第3日の終了時刻が大幅に遅くなり（第2日は懇親会があるので遅らせない）、事実上不可能であることがわかった。次の案は、その時間をこちらで定めた口演時間帯にとるというものであったが、それだと示説者も口演者も自由度が低下することになるので、結局上記の方式をとることにした。

ワークショップは各日終わりの3時間、示説発表者を10会場に分けて行われる。その数は3日間で延べ30になる。

時間帯は第1日15:00~18:00、第2日14:40~17:40（その後総会17:50~18:20、懇親会18:30~20:30の予定）、第3日は13:30~16:30の予定である。予告では口演と示説・ワークショップの区分けは分野・主題単位で行うことになっていたが、応募演題の分布状況を見た結果、それを機械的に適用することは不可能であるという結論に達した。そこで、演題募集のときに公示した分野・主題を参考にするとともに、一部ではさらに総括的な観点も加味して、新たにこちらで30の表題を作成した。その上で、ワークショップに相当と思われる演題を、それぞれについて20題前後割り振った。ここで適当な演題として選んだ基準は、発表内容のレベルの高低ではなく、それらを集めることによって、まとまりのあるワークショップを編成できるかどうかということである。くどいようであるが、口演演題と示説・ワークショップ演題とを区分けする際には、質的な差をまったく考慮しなかったことを繰り返し強調しておきたい。

ワークショップの運営方法は座長に一任したい。ただし演題募集の際に予告したように、示説発表者の全員に短時間口演（とくに座長の依頼のない限り5分以内、スライド3枚以下）の機会が与えられる。なお、プログラムでのワークショップ演題番号は、示説でのポスター展示順を示しているだけであり、ワークショップでの講演順は座長に決めてもらい、当日午前までに各会場入口やその他適

当なところにそれを掲示する。また、示説発表者以外の人に、概説や関連発言を座長が依頼することもできる。とにかく、3時間というかなりの長時間を有効に活用するように、すべての参加者の協力をお願いしたい。

以上がプログラムの概要である。ただし、これらはできたてのものであるので、当日までに多少の変更点が出てくるかもしれないことを、前もってお断りしておきたい。

冒頭に述べたように、今年の応募演題数は予想以上に多かった。ここ数年やや頭打ちの傾向にあったことを思えば、これは免疫学の最近の発展の一つの表れであると素直に理解したい。新人の発表も増加しているようである。それを反映してか、非会員の発表者がかなり多い。例えば、8月5日現在、筆頭発表者の約25%が未入会者である。筆頭と連名を問わず、発表者は国外留学者を含めて、必ず会員であることというルールを守っていただきたい。

9th International Congress of Immunology

The 9th International Congress of Immunology will be held July 23-29, 1995 in San Francisco, California, USA. The scientific program has been developed around five themes and will include symposia, workshops and special lectures.

The Molecular Basis of Immune Recognition

Developmental Biology of the Immune System

Activation and Immune Effector Functions

The Host: Pathogen Interaction

Tolerance, Autoimmunity and Medical Aspects of Immunology

The second announcement will be available in October and will include the preliminary scientific program, instructions for submission of abstracts, and registration and housing forms. To receive this information, please contact:

9th International Congress of Immunology

9650 Rockville Pike

Bethesda, MD 20814 USA

Telephone: (301) 530-7010 FAX: (301) 530-7014

〈気になる研究〉

免疫系の新たな側面

千葉大学医学部

谷口 克

NKT細胞という聞き慣れない細胞が最近のジャーナルにたびたび登場するようになった。この細胞は、文字どおりNK細胞とT細胞の両方の特徴を備えている。NK細胞の定義は諸説多かったが、NKマーカー、FcR (CD16) 陽性で、腫瘍や活性化された細胞を傷害する機能をもつが、T細胞やB細胞のように抗原受容体 (TCRやIg) を発現していない細胞である。この細胞の分化の経路は不明であるが、胸腺にはNK細胞がないのでT細胞のそれとはまったく異なるものと考えられている。

一方、T細胞の分化は胸腺内でのTCR遺伝子の再構成とCD4/CD8補助受容体の発現のプロセスを反映した分化の詳細が明らかにされている。その結果最終的にはNK、CD16陰性でTCRやCD4/CD8陽性のT細胞群ができあがり、ヘルパー・キラーT細胞機能群を構成するようになる。一見無関係のこれら2つの細胞集団も細胞分化の観点から眺めてみると、ともに共通の祖先 (CD4⁻/CD8⁻、CD16⁺) から分化していることがRheinherzのグループから明らかにされたのである。CD16⁺、CD4⁻/CD8⁻前駆

細胞は“特定のストローマ細胞”によって、あるときはNK⁻、CD16⁻、TCR $\alpha\beta$ ⁺T細胞へと分化し、ある条件ではCD4⁻/CD8⁻、CD16⁻、TCR $\alpha\beta$ ⁻、NK⁺のNK細胞へと分化する。

この新たなNKT細胞集団に光が当てられているのは言うまでもなく、NKT細胞の分化と機能の問題であろう。当然のことながら、NKT細胞はNKとT細胞の分化の図式から想像されるように、CD16陽性前駆細胞からのもう一つの分化の枝である可能性があるのである。これらは、胸腺内でのT細胞の分化が、すでにT細胞へのコミットメントが終わった後の比較的末期の分化のプロセスを見ているのに反して、CD16陽性前駆細胞からNK、TおよびNKTへの分化はもう一段階前のコミットメントを知る上で重要な情報を得ることができると思われるからである。

このシステムの最大の利点は、NKT細胞の多くが $\gamma\delta$ T細胞と同じようにホモジニアスなTCR α 鎖遺伝子 (V α 14J α 281) を発現し、きわめて限られたレパトアしか形成していないことである。すなわちV α 14受容体の発現がlineage markerとなっている点である。実際、V α 14遺伝子トランスジェニックマウスをTCR α 欠損マウスと交配してつくったTCR α -K0xV α 14TgマウスではTCR β 受容体セットはまったく正常であるにもかかわらず正常T細胞の分化は起こらなかったことから明らかである。すなわち、V α 14遺伝子の発現がNKT細胞の分化決定に何らかの関与をしていることを示唆しているのである。

NKT細胞は主として骨髄において胸腺外分化し、他の胸腺分化型のヘルパーTやキラーT細胞とは異なる分化パターンをとる。この細胞のselectionは骨髄細胞に表現されるnon MHCクラスI様分子によって行われ、トランスポーター (Tap-1) 依存性の抗原提示経路を必要としないことから、これまでとは異なる新しい分化機構が考えられている。

しかも、骨髄移植の拒絶、ハイブリッド・レジスタンスさらに自己免疫発症防御に関与することが示唆されており、NKT細胞の免疫系における役割を解明することは新たな免疫系の側面を照らし出すものと期待されている。

私が免疫学研究に

興味をもったのは？

東海大学医学部免疫学教室

垣生園子

数週間前、京大の大学院生と胸腺原基の発生に関する話をするチャンスがあった。その大学院生は、1960年代初めにAuerbachが開発した方法を用いて mouse embryonic thymus の分化誘導を *in vitro* で行おうとしていた。いまだに彼の方法が優れた有用な方法として用いられることに驚きを感じると同時に、Auerbachの名前は私にとってなつかしい響きをもっている。

私が大学院に入ってしばらくしたとき、指導教授であった故小林忠義先生からSpemannの本を戴いた。カエルやイモリ胚を用いたSpemannの一連の誘導実験は素晴らしく、特にその実験方法のアイデアと考察に感動したが、分化の研究は哺乳類でやりたかった。また、Spemannらの実験方法でなすべき形態学的検索は完了し、時代は誘導物質探索に移ろうとしていた。そしてなにより私は爬虫類や両生類が嫌いであった。小林教授はT細胞が発見される以前から上皮系と間葉系の相互作用で発生する胸腺に着目していて、興味深い話をたびたびして下さっていたのでイモリで胸腺の発生分化をやらされたら大変と、しばらく小林教授に近づかないで過ごした。幸いなことに、Spemannの本は発生分化を学ぶ者の常識として勧められたのであって、私が実際に研究するのはヒトや齧歯類を用いた胸腺分化で

あることが判った。このとき最初に読んだ胸腺関連の文献が、上記Auerbachの論文である。

胸腺の研究グループに入り、胸腺上皮の性状を超微形類的あるいは組織化学的に、ホルモン様物質の分泌顆粒を中心に検索した。しかし、分化を誘導される側のリンパ球がどのように形質変化をしていくのかを追う方法がなければ、上皮細胞側の誘導能を明らかにすることはできないと思われ、リンパ球の分化を研究することを先行することにした。その背景には、胸腺から発生分化したT細胞が免疫反応において重要な役割をすることが判ってきて、T細胞機能の解析が脚光をあげ始めたという事情があった。特にM.C.Raffの抗Thy-1抗体を用いた胸腺リンパ球分化の研究は、胸腺分化をリンパ球側から研究することの重要性と実現性を示唆していた。

私が属していた慶応大学の病理学教室では、そのような方向からのアプローチはできなかったもので、大学院を卒業後、RaffのいるMitchisonの研究室に向かった。そこでは、*in vitro*の系を用いてさまざまな免疫反応を再現し、反応に参加するリンパ球のサブセットやマクロファージの性状を解析していた。その*in vitro*の系では、機能の異なった多種類の細胞が役割分担をしながら、特定の抗原に対して協力して反応する様子が再現されていた。また、この協力反応体制に入るのは抗原特異的に活性化されたリンパ球のみであることも検証することができ、免疫系のダイナミックさと巧妙さに魅了された。このような時代的背景と環境のもとには私は免疫系のなかでもT細胞に親和性をもって研究を続けることとなった。役割分担をしたT細胞各々が分化する機構解明を夢見て…。

異なった機能をもつ細胞の集団が相互に作用して全体として多彩な機能を作り出している免疫系は、多くの分野のscientistの興味の対象となっている。そのためであろう、免疫関連の学会やシンポジウムに行くと免疫反応のネットワークさながらの多彩な分野の人々が話している。純粋に免疫反応の現象を解析している人の他に、生化学者あり分子生物学者あり、また遺伝的解析をする人もいればリンパ球の初期発生を研究している人がいる。内容も免疫細胞に特異的分子とそれをコードする遺伝子から、免疫細胞を利用して活性化分子やシグナルの研究もある。そこでは、T細胞やB細胞を介して、あるいは

Igを介して分野の違う人々が真剣な討論と情報交換をおこない、そこから各々が自分の分野にアイデアを取り入れることができる。このように1つの系を介して広範囲の scientist による交流と情報交換ができることが、免疫学をして多くの人々をひきつけ、かつまた医学生物学分野でここまで発展させてきた原因かと思われる。もっとも、免疫系細胞が遊離細胞であるため扱いやすく、めざす分子や遺伝子の単離あるいは機能の解析を容易にしたことも原因するであろうが…。

胸腺におけるリンパ球分化の研究は、1980年代前半までは実験系や解析手法が primitive なため遅々として進まず、フラストレーションに陥る時期もあった。それでもなお続けてこられたのは、上記のような免疫学の魅力によるものと思っている。

免疫学会への

の
ひ
ろ
い
と

大阪大学医学部腫瘍病理学研究部

平野俊夫

私が免疫学に踏み込んだ1972年は、細胞間相互作用が華やかに研究されるとともに、現在の免疫学の基礎になるリンパ球膜面分子や、サイトカインの存在が明らかにされつつあった。また、T細胞抗原受容体は、依然として謎であり、当時の免疫学者にとっては最大の関心事の一つでもあった。これら見果てぬ分子を追い求めて、免疫学者は、目の前の免疫現象を説明すべく、多くの仮説でもって議論しあっ

たものである。

一方、1972年といえば、ワシントンでの「第1回国際免疫学会」の開催や、日本免疫学会が発足した翌年でもある。このように、免疫化学の一時代を経て、細胞生物学としての免疫学が大きく動こうとしていた時代に免疫学を志したことは私の幸運であったともいえる。あれから20年、今、免疫学はT細胞抗原受容体はもちろんのこと、多くの現象が分子の言葉で説明できるようになり、さらなる深い理解を求めて、際限のない「サイエンス」のゲームを追求している。

免疫学は、一つの時代を終了し、今や成熟した学問になったという見方がある。確かにこれはある意味では事実である。私が免疫学を始めたころは“免疫学は難解である”と、よく免疫学以外の人に“皮肉”をもって批判されたものである。換言すれば免疫学が他の分野の人には理解できないもの一すなわちいかに未熟な学問であったかを意味している。今や免疫学は、生物学の共通の言語で他の分野の人と議論できるようになったばかりでなく、普遍的に他の領域にもあてはめることができる免疫学での発見が相次いでいる。さらに今後も、免疫学というリンパ球の細胞生物学を通じて新たな大発見があることが予想されるし、免疫学固有の未解決の問題も解決されていくであろう。

このように免疫学がまた一つ大きく動きだそうとしているときに、我が日本免疫学会を見つめるとき、いかに免疫学会が旧態依然としているか、愕然とするものがある。私が今さら言うまでもなく、今の免疫学会は、20年前とほとんどその実体が変わっていないように思う。もちろん少しずつではあるが、変化の兆しがないわけではない。今、免疫学会の指導者層は、1971年免疫学会発足当時より、日本の免疫学会の発展に大きく貢献されてきた、私にとっては大先生、あるいは大先輩と呼ぶべき人々から、私たちの第2世代へとバトンタッチがされようとしている。しかしながらそのバトンタッチの流れは、免疫学の動きに比較して、あまりにも緩慢な気がする。学問の流れに、免疫学会の変革が追いついていないのではないかと考えてならない。少なくとも理事や運営委員の一層の若返りは早く実現せねばならないと思う。さらに免疫学会会長の若返りと学会運営の近代化、効率化は急務であろう。是非とも

今年の会長、理事、運営委員会の選挙では、これらのことが現実になることを切望するものである。

組織というものはあくまでもハードであって、ハードがいかに機能するか否かはソフトの問題であり、人の問題である。また、免疫学のさらなる発展を支えるのは、もちろん人の問題ではあるが、これら研究者を影で支えるのは、ハード、すなわち免疫学会であり、組織の問題であろう。今、免疫学会に求められるのは、人の若返りと事務の近代化、そしてその先には国際的にリードできる若い免疫学者の育成とそのサポート態勢であろう。これらの目的を達成するために、考えられることは、例えば会長を含む理事や運営委員の定年制の導入であろう（例えば55歳定年）。是非とも若返った理事会のもとに、組織の再活性化が切望される。

IUISの現況

IUIS理事

笹月健彦

国際免疫学会連合 (IUIS: International Union of Immunology Societies) の概略と活動について説明し、そのあと6月14日にBarcelonaで開催された「第35回理事会」での決定事項、および報告事項について報告します。

IUISは、現在、38カ国の免疫学会から組織されており、それらは大きく以下の4つの免疫連合で構成されていることは本誌で既報の通りです。

- EFIS; European Federation of Immunological Societies
President: Klaus Eichmann (Germany)
- ALAI; Latin American Association of Immunology
President: Ethel Garcia Latorre (Mexico)
- FIMSA; Federation of Immunological Societies of Asia Oseania
President: G.P.Talwar (India)
- FAIS; Federation of African Immunological Societies
President: A.G.Tumbo-Oeri (Kenya)

IUISの目的は、免疫学の振興と免疫学者の育成ですが、その目的を達成するために、次のような5つのCommitteeが設立され、それぞれの活動を展開しています。

- Clinical Immunology Committee
Chairman: J. L. Fahey (USA)

このCommitteeは、3年ごとに開催されている「国際免疫学会」の直前に、臨床免疫に関しての国際シンポジウムを主催し、臨床免疫学分野の最新の知見を交換しています。次回の「Clinical Immunology」の国際シンポジウムは、本誌にその告知が掲載されていますが、1995年の「第9回国際免疫学会」の直前に、同じSan Franciscoで開かれる予定です。

- Education Committee
Chairman: Anders, Orn (Sweden)

このCommitteeは、従来は世界中から若い人を集め、免疫学の最先端の教育のコースを催していたのですが、ここ数年はNew DelhiやEstoniaなど、どちらかといえば開発途上の国々で開催し、その地域の問題点に根ざしたテーマを取り上げて、若い人を重点的に集め教育するコースを主催しています。1995年には、South Americaで「Immunology of Paracitic Disease」、また1995年と1996年にはAfricaで「Immunology of Infectious Disease」というテーマで教育コースが行われる予定です。

- Nomenclature Committee
Chairman: M. D. Kazatchine (France)

免疫学に関与するいろいろな分子、例えばCytokine、CD、HLAなど、年々新しく発見される物質に、混乱を防ぐため正式な名称を命名するために設けられたCommitteeです。そうして決定

された名称は「Immunology Today」「The Immunologist」に報告されています。

○Standardization Committee

Chairman: W. Knapp (Austria)

アレルギーの原因となるアレルゲンで、例えばダニのアレルゲン、あるいは花粉のアレルゲンは何かということ、recombinant 蛋白をきちんと作って診断とか治療に使いたいという場合が多くなり、そうしたときのための標準を作る Committee です。これまでは、ヒトの免疫グロブリンのアロタイプとか白血球の抗原とかの標準化をしていますが、時代に即した物質の標準化に抜本的に取り組もうとしています。

○Veterinary Immunology Committee

Chairman: B. Charley (France)

獣医免疫学ということになりますが、ヒト以外の大型動物の免疫学についての Committee であり、その主な活動は、来年の「国際免疫学会」に併せ、San Francisco 近くの Davis で4回目のシンポジウムを開催し、また、1998年には India で国際免疫学会にあわせて第5回目の国際シンポジウムを開催する予定です。

次に IUIS の予算についてその概略を報告します。

1993年の収支は下記ようになります。

・ Grand Total Income

\$ 231,180.26 f 9,364.16

・ Grand Total Expenditure

\$ 201,508.61 f 3,372.57

・ Surplus

\$ 29,671.65 f 5,991.59

収入の \$ 231,180.26のうち \$ 120,000余りは前年度からの繰越金であり、残り約 \$ 110,000のうち、約 \$ 81,000は、各国免疫学会が会員一人当たり \$ 3.00として計算して拠金したものです。すなわち IUIS の活動費は、会員一人一人が支えているといえます。この IUIS への拠金ですが、1993年を例にとれば、USA の \$ 14,580を筆頭に UK、日本と続きます。日

本の場合、ここ数年来 \$ 9,000 と同額の拠金で据え置いたままでしたが、本年度は会員3,500人として拠金しており、今後もその実状にあった対応が望まれています。

以上が、IUIS の概略ですが、以下の事項が「第35回 IUIS 理事会」で確認、あるいは検討されました。

・本誌創刊号でもふれられていますが、IUIS の機関誌の「The Immunologist」(既刊6号)の購読を引き続き会員にお願いする。

(購読の申込みについては、パンフレットを同封してあり、それをご覧いただきたい)

・現在、IUIS の構成は4つの Federation、それに USA を加えた5つのグループがあり、16人の理事を選出し構成していますが、これら5つのグループから少なくとも1人の理事が選出されるような選挙にしないといけないのではないか。

・拠金を支払えない免疫学会が存在する実体があり、それらを今後どうするのか。しかしながら、IUIS の投票権もあるメンバーであるためには拠金を必須の条件にすべきであり、現時点では結論が出ていません。

・現在の IUIS の資金は余りにも少なく、そのためにはスポンサーをそれぞれの免疫学会がみつけてほしいとの要請がなされました。

今後の国際免疫学会については、下記のように確認されました。

【第9回国際免疫学会】1995年7月 San Francisco

【第10回国際免疫学会】1998年11月 New Delhi

【第11回国際免疫学会】2001年(1994年10月31日)がその締め切りですが、現在までオランダ、イスラエル、チェコ、スカンジナビア、イギリスの5つの国の免疫学会が立候補しています)

また、新メンバーとして、Croatia、Czech Republic、Slovak Republic が加盟を承認され、Hong Kong、Yugoslavia の2つはオブザーバーとして認められました(談)。

○「CIS/CIC International Symposium on Clinical Immunology 1995」開催のお知らせ○

場 所: San Francisco Marriott Hotel

日 時: JULY 20-23, 1995

問い合わせ先: CIS/CIC Registration Manager, 6900 Grove Road, Thorofare NJ08086-9447, U.S.A.

FIMSAの現況



FIMSAの第4回理事会は、1994年6月15日、EFIS congressの開催中にスペイン・バルセロナで開かれた。参加国は、インド、タイ、中国、台湾、オーストラリア、日本の6カ国で、それぞれの理事と代表者が参加した。他にオブザーバーとして、現在参加申し込み中のホンコン免疫学会の代表者、またIUISの現会長のH. Metzgerと前会長のJ. Natvigが参加した。日本からは、多田富雄のほかに笹月健彦IUIS理事が出席した。

まず、第3回理事会の議案が承認され、続いて、FIMSAのNewsletterが新たに発行され、参加者にその見本誌が配布された。内容の主なもの、FIMSAのアナウンスが中心であるが、他にオーストラリアのGus Nossal教授のオーストラリア免疫学会史の記事があり、興味深い。

また、1994年10月にオーストラリアでIUISと

WHOが後援する「Advanced Training Course」が開催されること。また1995年、FIMSAとEFISの後援による第2回目のコースが開かれることが公示されている。今後も、上記のような研究会が開催されるので、日本からの参加を促している。

今回創刊されたFIMSAのNewsletter購読希望者は、直接「日本免疫学会事務局」に問い合わせたいが、日本に送付された部数は非常に限られており、すべての会員に郵送できないことを、ご了承ください。今後も、機会があれば本誌でその内容を紹介するつもりである。

理事会では、インド免疫学会代表のDr. Talwarから、1998年ニューデリーで開催予定の「第10回国際免疫学会」の素案の説明があった。ただし、その参加予定人数や全体的な予算などについてかなり楽観的な部分が見られ、それらについて激しい討論が交わされた。結局、1995年サンフランシスコでの「第9回国際免疫学会」に併せて開催される次回のFIMSAの理事会までに、もっと煮つめた案が提出されることになった。

最後に、第1回のFIMSA Congress開催について、オーストラリア免疫学会が自国の年次総会につなげてスポンサーとなり、1996年12月1日～5日までオーストラリア・アデライドで開催することが提案された。Congressの統一テーマは、「Immunology in Health and Disease」。FIMSAは経済的援助をすると同時に、多くの参加者を補助することとなり、日本からも多くの参加者が期待されている。尚、詳細については事務局で、現在パンフレットを作成中であり、本年度中には配布される予定であるが、本誌でも次号（1995年3月発行予定）で続報を伝えたい。

いずれにしても、FIMSAもようやく具体的な活動を始め、今後、Congressなどを通して各国間の共同研究、人材の交流が行われることになるだろう。若い会員の方々も積極的に参加していただきたい（談）。

○「Eighth International Congress of Mucosal Immunology San Diego 1995」開催のお知らせ○

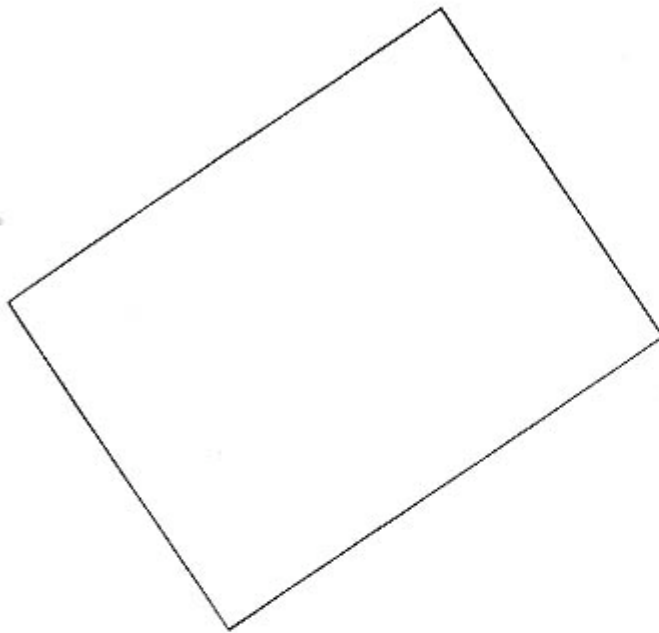
日 時：1995年、7月16日～20日

場 所：Hyatt Regency, One Market Place, San Diego, CA92101

問い合わせ先：Eighth International Congress of Mucosal Immunology

7916 Convoy Court, San Diego, CA92111-1212 U.S.A.

FAX: (619) 565-9954

International Immunology
CONTENTS**VOL.6 NO. 3**

T. Renno, R. Zeine, J. M. Girard, S. Gillani, V. Dodelet and T. Owens

Selective enrichment of Th 1 CD45RB^{low} CD4⁺ T cells in autoimmune infiltrates in experimental allergic encephalomyelitis 347

A. M. Hamilton, A. Lehen and J. F. Kearney
Immunofluorescence analysis of B-1 cell ontogeny in the mouse 355

J. Alexander, J. Ruppert, K. Snoke and A. Sette
TCR antagonism and T cell tolerance can be independently induced in a DR-restricted, hemagglutinin-specific T cell clone 363

S. Sanderson and N. Shastri
LacZ inducible, antigen/MHC-specific T cell hybrids 369

B. Omri, P. Crisanti, F. Alliot, M. -C. Marty, J. Rutin, C. Levallois, A. Privat and B. Pessac
CD4 expression in neurons of the central nervous system 377

M. do Carmo Leite-de-Moraes, A. Coutinho, M. Hontebeyric-Joskowicz, P. Minoprio, H. Eisen and A. Bandeira
Skewed V_H TCR repertoire of CD8⁺ T cells in murine *Trypanosoma cruzi* infection 387

F. Shinjo, R. R. Hardy and J. Jongstra
Monoclonal anti- λ 5 antibody FS1 identifies a 130 kDa protein associated with λ 5 and V_H^{pre-B} on the surface of early pre-B cell lines 393

B. L. Kee, A. Cumano, N. N. Iscove and C. J. Paige
Stromal cell independent growth of bipotent B cell-macrophage precursors from murine fetal liver 401

E. M. Eugui, B. DeLustro, S. Rouhafza, M. Ilnicka, S. W. Lee, R. Wilhelm and A. C. Allison
Some antioxidants inhibit, in a co-ordinate fashion, the production of tumor necrosis factor- α , IL- β , and IL-6 by human peripheral blood mononuclear cells 409

C. Gouttefangeas, S. Jacquot, E. Meffre, M. Schmid, L. Bousmell and A. Bensussan
Differential proliferative responses in subsets of human CD28⁺ cells delineated by BB27 mAb 423

M. Iwata, R. Iseki, K. Sato, Y. Tozawa and Y. Ohoka
Involvement of protein kinase C- ϵ in glucocorticoid-induced apoptosis in thymocytes 431

B. Arunachalam, C. A. Lamb and P. Cresswell
Transport properties of free and MHC class II-associated oligomers containing different isoforms of human invariant chain 439

B. H. Johansen, S. Buus, F. Vartdal, H. Viken, J. A. Eriksen, E. Thorsby and L. M. Sollid
Binding of peptides to HLA-DQ molecules: peptide binding properties of the disease-associated HLA-DQ (α 1*0501, β 1*0201) molecule 453

- I. E. A. Flesch and S. H. E. Kaufmann
Role of macrophages and $\alpha\beta$ T lymphocytes in early interleukin 10 production during *Listeria monocytogenes* infection 463
- W. Holter, F. S. Kalthoff, W. F. Pickl, C. Ebner, O. Majdic, D. Kraft and W. Knapp
Transforming growth factor- β inhibits IL-4 and IFN- γ production by stimulated human T cells 469
- R. Q. Hintzen, S. M. A. Lens, G. Koopman, S. T. Pals, H. Spits and R. A. W. van Lier
CD70 represents the human ligand for CD27 477
- J. D. Dasgupta, C. B. Granja, E. J. Yunis and V. Relias
MHC class I antigens regulate CD3-induced tyrosine phosphorylation of proteins in T cells 481
- L. Huang, K. Sye and I. N. Crispe
Proliferation and apoptosis of B220⁺CD4⁺CD8⁻TCR $\alpha\beta$ intermediate T cells in the liver of normal adult mice: implication for *Ipr* pathogenesis 533
- J. Allison, L. Oxbrow and J. F. A. P. Miller
Consequences of *in situ* production of IL-2 for islet cell death 541
- O. Lecomte, C. Hivroz, F. Mazerolles and A. Fischer
Differential CD4-dependent regulation of naive and memory CD4⁺ T cell adhesion is not related to differences in expression and function of CD4 and p56^{lck} 551
- J. J. Kenny, G. Guelde, R. T. Fischer and D. L. Longo
Induction of phosphocholine-specific antibodies in X-linked immune deficient mice: *in vivo* protection against a *Streptococcus pneumoniae* challenge 561
- C. Yang and E. B. Bell
Thymic education curtailed: defective immune responses in nude rats reconstituted with immature thymocyte subsets 569
- S. C. Li, P. B. Rothman, J. Zhang, C. Chan, D. Hirsh and F. W. Alt
Expression of I α -C γ hybrid germline transcripts subsequent to immunoglobulin heavy chain class switching 491
- L. D. Taylor, C. E. Carmack, D. Huszar, K. M. Higgins, R. Mashayekh, G. Sequer, S. R. Schramm, C. -C. Kuo, S. L. O'Donnell, R. M. Kay, C. S. Woodhouse and N. Lonberg
Human Immunoglobulin transgenes undergo rearrangement, somatic mutation and class switching in mice that lack endogenous IgM 579
- W. O. Dutra, O. A. Martins-Filho, J. R. Cançado, J. C. Pinto-Dias, Z. Brener, G. L. Freeman, Jr, D. G. Colley, G. Gazzinelli and J. C. Parra
Activated T and B lymphocytes in peripheral blood of patients with Chagas' disease 499
- S. Kubo, T. Nakayama, M. Furutani-Seiki, H. Kishimoto, K. Hashimoto, M.-J. Bae, T. Yokochi, N. Takeda, S. Aizawa, Y. Asano and T. Tada
A novel form of self tolerance dictated in the thymus of transgenic mice with autoreactive TCR α and β chain genes 593
- H. S. Warren, B. F. Kinnear, C. S. Witt and F. T. Christiansen
Proliferation of alloreactive human natural killer cells independent of specific allogeneic stimulation 507
- J. M. van Noort, S. M. Anderton, J. P. A. Wagenaar, M. H. M. Wauben, C. van Holten and C. J. P. Boog
Differential rat T cell recognition of cathepsin D-released fragments of mycobacterial 65 kDa heat-shock protein after immunization with either the recombinant protein or whole mycobacteria 603
- L. Xu and P. Rothman
IFN- γ represses ϵ germline transcription and subsequently down-regulates switch recombination to ϵ 515
- A. Cayota, F. Vuillier, J. Siciliano and G. Dighiero
Defective protein tyrosine phosphorylation and altered
- S. Watanabe, H. Yssel, Y. Harada and K. Arai
Effects of prostaglandin E₂ on T_H0-type human T cell clones: modulation of functions of nuclear proteins involved in cytokine production 523

VOL.6 NO. 4

levels of p59^{yn} and p56^{lck} in CD4 T cells from HIV-1 infected patients 611

Å. Andersson, B. Ekstrand-Hammarström, B. Eriksson, C. Övermo and D. Holmberg
Neonatal treatment with monoclonal natural antibodies restores a normal pattern of V_H gene utilization in the non-obese diabetic mouse 623

R. de Jong, R. A. W. van Lier, F. W. Ruscetti, C. Schmitt, P. Debré and M. D. Mossalayi
Differential effect of transforming growth factor- β 1 on the activation of human naive and memory CD4⁺ T lymphocytes 631

R. Khanna, S. R. Burrows, V. Argact and D. J. Moss
Endoplasmic reticulum signal sequence facilitated transport of peptide epitopes restores immunogenicity of an antigen processing defective tumour cell line 639

M. Ogimoto, T. Katagiri, K. Mashima, K. Hasegawa, K. Mizuno and H. Yakura
Negative regulation of apoptotic death in immature B cells by CD45 647

N. Toyama-Sorimachi and M. Miyasaka
A novel ligand for CD44 is sulfated proteoglycan 655

H. Niiro, T. Otsuka, S. Kuga, Y. Nemoto, M. Abe, N. Hara, T. Nakano, T. Ogo and Y. Niho
IL-10 inhibits prostaglandin E₂ production by lipopolysaccharide-stimulated monocytes 661

T. Sato, Y. Endo, M. Matsushita and T. Fujita
Molecular characterization of a novel serine protease involved in activation of the complement system by mannose-binding protein 665

VOL.6 NO. 5

U. E. Schaible, R. Wallich, M. D. Kramer, G. Nerz, T. Stehle, C. Museteanu and M. M. Simon
Protection against *Borrelia burgdorferi* infection in SCID mice is conferred by presensitized spleen cells and partially by B but not T cells alone 671

E. Zisman and E. Mozes
Processing requirements of two acetylcholine receptor derived peptides for binding to antigen presenting cells and stimulation of murine T cell lines 683

I. E. A. Flesch, J. H. Hess, I. P. Oswald and S. H. E. Kaufmann
Growth inhibition of *Mycobacterium bovis* by IFN- γ stimulated macrophages: regulation by endogenous tumor necrosis factor- α and by IL-10 693

K. D. Chavin, L. Qin, J. Lin, J. Woodward, P. Baliga, K. Kato, H. Yagita and J. S. Bromberg
Anti-CD48 (murine CD2 ligand) mAbs suppress cell mediated immunity *in vivo* 701

P. Sanchez, A.-M. Drapier, M. Cohen-Tannoudji, E. Colucci, C. Babinet and P.-A. Cazenave
Compartmentalization of λ subtype expression in the B cell repertoire of mice with a disrupted or normal C κ gene segment 711

W. J. Karpus, J. D. Peterson and S. D. Miller
Anergy *in vivo*: down-regulation of antigen-specific CD4⁺ T_H1 but not T_H2 cytokine responses 721

N. K. Nanda, E. E. Scrcarz, D.-H. Hsu and M. Kronenberg
A unique pattern of lymphokine synthesis is a characteristic of certain antigen-specific suppressor T cell clones 731

X. Shan, H. Luo, B. Houle and J. Wu
Expression of a G-protein β subunit-related gene during lymphocyte activation 739

I. Joosten, M. H. M. Wauben, M. C. Holewijn, K. Reske, L. Ø. Pedersen, C. F. P. Roosenboom, E. J. Hensen, W. van Eden and S. Buus
Direct binding of autoimmune disease related T cell epitopes to purified Lewis rat MHC class II molecules 751

T. M. Doherty, S. G. Love, D. R. K. Harding and J. D. Watson
Reversal of T cell unresponsiveness by augmentation of antigen presenting cell function 761

A. August and B. Dupont
CD28 of T lymphocytes associates with

phosphatidylinositol 3-kinase

769

Myoblasts fail to stimulate T cells but induce tolerance
847J. L. Pierce, K. A. Zborowski, E. Kraig and A. J. Infante
Highly conserved TCR β chain CDR3 sequences among
immunodominant acetylcholine receptor-reactive T cells
in murine myasthenia gravis 775H. Maeda, M. Takata, S. Takahashi, S. Ogoshi and S.
Fujimoto
Adoptive transfer of a T_H2-like cell line prolongs MHC
class II antigen disparate skin allograft survival in the
mouse 855L. R. B. Soares, E. E. Sercarz and A. Miller
Vaccination of the *Leishmania major* susceptible
BALB/c mouse. I. The precise selection of peptide
determinant influences CD4⁺ T cell subset expression
785I.-L. Mårtensson and F. Melchers
Pre-B cell-specific λ 5 gene expression due to
suppression in non pre-B cells 863**VOL.6 NO. 6**C. Martin, M. Belo, N. M. Le Douarin and C. Corbel
A study of peripheral tolerance through embryonic
grafts of the bursal epithelial rudiment between MHC-
distinct chick embryos 795D. C. Hooper, D. H. Rubin and J. J. Cebra
Spontaneous proliferation of Peyer's patch cells *in vitro*
873H. Braley-Mullen, G. N. Milligan and A. M. Van
Buskirk
Requirement for B cell-derived immunoglobulin for T_H
activation by the type 2 antigen polyvinylpyrrolidone
805D. Mason
Allelic exclusion of α chains in TCRs 881K. Ohnishi, F. M. Ebling, B. Mitchell, R. R. Singh, B.
H. Hahn and B. P. Tsao
Comparison of pathogenic and non-pathogenic murine
antibodies to DNA: antigen binding and structural
characteristics 817J. -P. Truman, M. L. Ericson, C. J. M. Choqueux-
Séebold, D. J. Charron and N. A. Mooney
Lymphocyte programmed cell death is mediated via
HLA class II DR 887Y. Hasegawa, K. Yokono, T. Taki, K. Amano, Y.
Tominaga, R. Yoneda, N. Yagi, S. Maeda, H. Yagita, K.
Okumura and M. Kasuga
Prevention of autoimmune insulin-dependent diabetes in
non-obese diabetic mice by anti-LFA-1 and anti-ICAM-
1 mAb 831L. Struyk, G. E. Hawes, R. J. E. M. Dolhain, A. van
Scherpenzeel, B. Godthelp, F. C. Breedveld and P. J.
van den Elsen
Evidence for selective *in vivo* expansion of synovial
tissue-infiltrating CD4⁺ CD45RO⁺ T lymphocytes on
the basis of CDR3 diversity 897A. Morioka, M. Iwashiro, Y. Matsubayashi, Y.
Teramura and K. Kuribayashi
Effects of non-MHC background genes on the induction
of CD4⁺ T cells that prevent rejection of a highly
immunogenic tumor, FBL-3 839S. Nisitani, T. Tsubata and T. Honjo
Lineage marker-negative lymphocyte precursors
derived from embryonic stem cells *in vitro* differentiate
into mature lymphocytes *in vivo* 909M. A. Zahalka and D. Naor
 β_2 -integrin dependent aggregate formation between LB
T cell lymphoma and spleen cells: assessment of
correlation with spleen invasiveness 917

Short Paper

A. N. Warrens, J. Y. Zhang, S. Sidhu, D. J. Watt, G.
Lombardi, C. A. Sewry and R. I. LechlerE. Mariéthoz, F. Tacchini-Cottier, M. Jacquier-Sarlin,
F. Sinclair and B. S. Polla
Exposure of monocytes to heat shock does not increase

class II expression but modulates antigen-dependent T cell responses 925

VOL.6 NO. 7

M. D. Mossalayi, N. Paul-Eugène, F. Ouaz, M. Arock, J. P. Kolb, E. Kilchherr, P. Debré and B. Dugas
Involvement of Fc ϵ RII/CD23 and the L-arginine-dependent pathway in IgE-mediated stimulation of human monocyte functions 931

N. N. Noben, M. E. Wilson and R. G. Lynch
Modulation of the low-affinity IgE Fc receptor (Fc ϵ RII/CD23) by *Leishmania chagasi* 935

T. Yamamura, T. Kondo, S. Sakanaka, M. Kozovska, T.-C. Geng, K. Takahashi and T. Tabira
Analysis of T cell antigen receptors of myelin basic protein specific T cells in SJL/J mice demonstrates an α chain CDR3 motif associated with encephalitogenic T cells 947

S. Tomida, T. Hasegawa, M. Takeuchi, N. Niimi, M. Ueda, T. Kaneda, T. Tanaka, T. Tamatani, M. Miyasaka and Y. Yoshikai
Intercellular adhesion molecule-1 and leukocyte function-associated antigen-1 are involved in protection mediated by CD3⁺TCR α β T cells at the early stage after infection with *Listeria monocytogenes* in rats 955

T. Nara, N. Matsumoto, T. Janecharut, H. Matsuda, K. Yamamoto, T. Irimura, K. Nakamura, M. Aikawa, I. Oswald, A. Sher, K. Kita and S. Kojima
Demonstration of the target molecule of a protective IgE antibody in secretory glands of *Schistosoma japonicum* larvae 963

A. V. Chervonsky, L. Gordon and A. J. Sant
A segment of the MHC class II β chain plays a critical role in targeting class II molecules to the endocytic pathway 973

G. Biasi, M. Panozzo, P. Pertile, S. Mezzalana and A. Facchinetti
Mechanism underlying superantigen-induced clonal deletion of mature T lymphocytes 983

T. Kuramoto, T. Mashimo, R. Koike, S. Miyawaki, J. Yamada, M. Miyasaka and T. Serikawa
The alymphoplasia (*aly*) mutation co-segregates with the intercellular adhesion molecule-2 (*Icam-2*) on mouse chromosome 11 991

Y. Shinkai and F. W. Alt
CD3 ϵ -mediated signals rescue the development of CD4⁺CD8⁺ thymocytes in RAG-2^{-/-} mice in the absence of TCR β chain expression 995

L. H. Elson, S. Shaw, R. A. W. Van Lier and T. B. Nutman
T cell subpopulation phenotypes in filarial infections: CD27 negativity defines a population greatly enriched for T_H2 cells 1003

D. L. Morris and T. L. Rothstein
Decreased surface IgM receptor-mediated activation of phospholipase C γ 2 in B-1 lymphocytes 1011

M. Kasai, K. Aoki, Y. Matsuo, J. Minowada, R. T. Maziarz and J. L. Strominger
Recombination hotspot associated factors specifically recognize novel target sequences at the site of interchromosomal rearrangements in T-ALL patients with t(8;14)(q24;q11) and t(1;14)(p32;q11) 1017

M. Sammar, S. Aigner, M. Hubbe, V. Schirmacher, M. Schachner, D. Vestweber and P. Altevogt
Heat-stable antigen (CD24) as ligand for mouse P-selectin 1027

T. J. Yun, M. D. Tallquist, E. M. Rohren, J. M. Sheil and L. R. Pease
Minor pocket B influences peptide binding, peptide presentation and alloantigenicity of H-2K^b 1037

G. A. Bishop, L. M. Ramirez and T. J. Waldschmidt
Differential responses to Ig and class II-mediated signals in splenic B cell subsets from normal and autoimmune mice 1049

P. Mombaerts, E. Mizoguchi, H.-G. Ljunggren, J. Iacomini, H. Ishikawa, L. Wang, M. J. Grusby, L. H. Glimcher, H. J. Winn, A. K. Bhan and S. Tonegawa
Peripheral lymphoid development and function in TCR mutant mice 1061

- H. Umehara, Y. Minami, N. Domae and E. T. Bloom
Increased processing of lymphocyte function-associated antigen-1 in human natural killer cells stimulated with IL-2 1071
- S. Hoshi, M. Furutani-Seiki, M. Seto, T. Tada and Y. Asano
Prevention of TCR-mediated apoptosis by the elevation of cAMP 1081
- Short Paper
- H. Yssel, S. Fasler, J. E. de Vries and R. de Waal Malefyt
IL-12 transiently induces IFN- γ transcription and protein synthesis in human CD4⁺ allergen-specific T_H2 T cell clones 1091
- VOL.6 NO. 8**
- G. Ast, D. Goldblatt, A. Waisman, R. Sperling, E. Mozes and J. Sperling
An autoantibody derived from mice with experimental systemic lupus erythematosus is directed against the essential splicing factor SF53/4-a possible role for large nuclear ribonucleoprotein particles in autoimmune disorders 1097
- M. Utsuyama, J. W. Albright, K. L. Holmes, K. Hirokawa and J. F. Albright
Changes in the subsets of CD4⁺ T cells in *Trypanosoma musculi* infection: delay of immunological cure in young mice and the weak ability of aged mice to control the infection 1107
- A. Hoerauf, W. Solbach, M. Lohoff and M. Rölinghoff
The Xid defect determines an improved clinical course of murine leishmaniasis in susceptible mice 1117
- A. Weisz, S. Kirchhoff and B.-Z. Levi
IFN consensus sequence binding protein (ICSBP) is a conditional repressor of IFN inducible promoters 1125
- T. Hirose, T. Kobata, Y. Nojima, S. F. Schlossman and C. Morimoto
3H11, a unique cell surface molecule involved in the function of the CD45RA⁺ subset of CD4⁺ cells 1133
- B. Albrecht, S. Peiritsch and M. Woisetschlager
A bifunctional control element in the human IgE germline promoter involved in repression and IL-4 activation 1143
- S. Danilov, E. Atochina, H. Hiemisch, T. Churak-ova, A. Moldobayeva, I. Sakharov, G. Deichman, U. Ryan and V. R. Muzykantov
Interaction of mAb to angiotensin-converting enzyme (ACE) with antigen *in vitro* and *in vivo*: antibody targeting to the lung induces ACE antigenic modulation 1153
- A. E. Oancea and M. J. Shulman
An improved system of somatic cell molecular genetics for analyzing the requirements of Ig synthesis and function 1161
- P. Malde and M. K. L. Collins
Disregulation of Myc expression in murine bone marrow cells results in an inability to proliferate in sub-optimal growth factor and an increased sensitivity to DNA damage 1169
- C. Caux, C. Massacrier, B. Vanbervliet, C. Barthelemy, Y.-J. Liu and J. Banchereau
Interleukin 10 inhibits T cell alloreaction induced by human dendritic cells 1177
- R. Janssen, M. Wauben, R. van der Zee, M. de Gast and J. Tommassen
Influence of amino acids of a carrier protein flanking an inserted T cell determinant on T cell stimulation 1187
- G. Kraal, K. Schornagel, H. Savelkoul and T. Maruyama
Activation of high endothelial venules in peripheral lymph nodes. The involvement of interferon-gamma 1195
- T. Christoph, R. Rickert and K. Rajewsky
M17: a novel gene expressed in germinal centers 1203
- K. Maeda, H. Nagasawa, A. Furukawa, H. Hisaeda and K. Himeno
Split tolerance between spleen and lymph node cells in severe combined immunodeficiency mice grafted with

- AKR fetal liver cells 1213
K. Miyake, Y. Yamashita and M. Kimoto
A calcium- or manganese-dependent epitope on the integrin β_1 chain recognized by a unique mAb 1221
- R. Dobber, M. Tielemans, H. de Weerd and L. Nagelkerken
Mel14⁺ CD4⁺ T cells from aged mice display functional and phenotypic characteristics of memory cells 1227
- S. Pruksakorn, B. Currie, E. Brandt, C. Phornphutkul, S. Hunsakunachai, A. Manmontri, J. H. Robinson, M. A. Kehoe, A. Galbraith and M. F. Good
Identification of T cell autoepitopes that cross-react with the C-terminal segment of the M protein of group A streptococci 1235
- N. Fusaki, K. Semba, T. Katagiri, G. Suzuki, S. Matsuda and T. Yamamoto
Characterization of p59^{lck}-mediated signal transduction on T cell activation 1245
- A. Rolink, U. Grawunder, T. H. Winkler, H. Karasuyama and F. Melchers
IL-2 receptor α chain (CD25, TAC) expression defines a crucial stage in pre-B cell development 1257
- Short Papers
- J. Chen, A. Ma, F. Young and F. W. Alt
IL-2 receptor α chain expression during early B lymphocyte differentiation 1265
- K. Kuno, K. Sukegawa, Y. Ishikawa, T. Orii and K. Matsushima
Acid sphingomyelinase is not essential for the IL-1 and tumor necrosis factor receptor signaling pathway leading to NF κ B activation 1269
- N. Ishii, T. Takeshita, Y. Kimura, K. Tada, M. Kondo, M. Nakamura and K. Sugamura
Expression of the IL-2 receptor γ chain on various populations in human peripheral blood 1273
- J. F. DiMartino, P. Hayes, Y. Saga and J. S. Lee
A novel initiator/promoter element within the CD45 upstream region 1279

○「第39回日本リウマチ学会総会」開催のお知らせ○

会期：1995年（平成7年）5月11日（木）～13日（土）

会場：神戸国際会議場（神戸市中央区港島中町6-9-1；Tel. 078-302-5200）他

演題申込み締切り：1994年（平成6年）11月15日（火）当日消印有効

*演題申込は本会会員に限ります。

*シンポジウム、ワークショップ等の詳細は、雑誌「リウマチ」第34巻4号をご覧ください。

お問い合わせ：570 大阪府守口市文園町10-15 関西医科大学整形外科学教室内

第39回日本リウマチ学会総会会長 小川 亮恵

Tel. 06-992-1001（内線3290） Fax.06-994-1699

理事会より
 

本学会の理事会は、定例的には4月、8月、11月（学術集会前日）に開かれる。

4月の理事会では、その年度の学術集会の実施方式原案を学術集会会長が提案、説明し、それを検討して最終結論を出し、また、2年後の学術集会の会長と開催地が仮決定される。

8月の理事会では、それらがもっと具体的に決定される。

11月の理事会では、翌日の総会のための会計報告と予算原案の作成、総会議事の決定、翌日からの学術集会実施要領の最終確認が行われる。

ただし、議題はもちろんこれらだけではない。学会運営についての諸問題と、IUISとFIMSA (Federation of Immunological Societies of Asia-Oceania)をはじめとする国際団体の一員としての活動方針、賞や助成金への候補者推薦とその結果の検討などは、いつもの議題である。8月の理事会では、科研費（免疫）審査委員の学術会議への推薦者を、運営委員からの推薦投票結果を尊重して決定する。また、役員改選の年であれば、候補者の推薦や選挙の方式を決定する。これらの決定事項のうち、会員の皆さんにお知らせすべき事は、これまでは6月の学術集会案内と11月の総会、学術集会記録に載せてきたが、これからは、このNewsletterも活用されることになる。

最近の理事会は、8月22日に東京で開かれた。上記のようなことが議題となったが、その中からいくつかのことについてお知らせする。

1) 今年の学術集会について、学術集会会長から説明があった。その内容は本誌の別項に記されているので参照されたい。

2) 第26回学術集会は、白井俊一学術集会会長、奥村 康、八木田秀雄、広瀬幸子各副会長の世話で、1996年11月26～28日、バシフィコ横浜で開催される。

3) 9月に運営委員による運営委員、理事、監査の選挙が行われる。このNewsletterが発行される頃には、選挙は終わっている予定である。また、11月には、全会員の直接投票による学会会長の選挙が行われる。候補者3名も決まった。11月初旬に皆さん（ただし、10月上旬までに1994年度会費を振込支払済みの会員に限る）にお届けする総会、学術集会記録で公示し、投票用紙や封筒もはさみこんである。投票締め切りは11月18日（消印有効）。選挙にご協力ください。

4) 来年の7月23～29日にサンフランシスコで、第9回国際免疫学会会議が開かれる。日本免疫学会は1995年1月1日現在35歳以下で、演題（トップオーサー）提出者および講演者あるいは座長として招待されたもの30人以内に対し、各10万円を援助する。希望者は演題アブストラクト等と略歴各2通を、来年の2月10日までに学会事務局宛てに送ってください。このために作られた審査委員会が、受領者を決定する。

5) FIMSAの第1回ミーティングが、1996年12月1～6日にオーストラリアのAdelaideで開かれる。日本から多くの人々が参加するようにと、強く要望されている。

（理事・庶務幹事 村松 繁）

●編集後記●灼熱で煽られた8月もようやく終わった。【JSI Newsletter】の編集も煽られながら第3号を終わった。いつも考えることは、この情報過多の時代に、4500人有余の日本免疫学会会員にどのようなニュースを的確に早くお知らせするかということである。手探り状態から出発したが、毎号何か新しい試みを持たせたいと思い、一方、長続きさせたいとの考えも出てくる。免疫学の研究の飛躍的発展とともに、免疫学研究者ならびにそれを目指す若手研究者が増えることを期待している。そのために学会活動がますます活発になるよう、【JSI Newsletter】がその架け橋になるよう心がけたい。会員諸氏のオピニオンをお待ちしています（高津）。

発行 日本免疫学会 606 京都市左京区北白川追分町 京都大学理学部動物学教室内

編集 高津聖志（東大・医科研）／笹月健彦（九大・生医研）／熊谷勝男（東北大・歯）／村松 繁（京大・理）

1994年10月1日発行 Printed in Japan